

【第13回日本言語文化学会発表要旨】

会話における相づちの中日対照研究
—形態、頻度、機能を中心に—

楊 晶

(1996.12.7 発表)

1. はじめに

1-1. 研究の目的

日本語の相づちに関する研究が盛んに行なわれている一方、中国語の相づちに関する実証的研究は殆ど見当たらない。そこで中国人と日本人の母語における相づちの使用実態を調査・分析し、両言語の相づちの類似点・相違点を見出すことを研究の目的とした。本発表は、その形態、頻度、会話の進行上果たす機能について考察した結果をまとめたものである。

1-2. 定義

相づちの定義は研究者によって異なる。本研究は相づちを広義に解釈する立場に立ち、次のように定義した。

「相づち」とは、話し手が発話権を行使している間に、または話し手の発話が終了した直後に、聞き手が自由意志に基づいて送る（非言語行動を含む）短い表現のことである。

形態的には、「はい」「ええ」「うん」「そうですか」のような相づち詞（中国語では、それに当たるような感嘆詞やいい回し）、くり返し、言い換え、先取り、話し手の話に対する感想や意見などの言語表現、非言語行動の中のうなずきを取り扱うこととする。

2. 調査方法

2-1. 対象者

中国語母語話者：お茶の水女子大学留学中の中国人女子留学生12名

日本語母語話者：同大学在学中の日本人女子学生6名

2-2. データの収集

同じ条件のもとで会話資料を収集する考えから、中日両言語ともに語学クラスの情報を求めに、被験者が学校の事務室で初対面の女性事務員（中

国人1名、日本人1名)に情報を教えてもらうという場面を設定した。そこで行なわれる1対1の会話(中国語12組、日本語6組)を録画・録音し、分析資料とした。

会話収録後、留学生全員にフォローアップインタビュー及び質問紙による個人的背景や相づちに関する意識調査も行なった。

3. 分析結果及び考察

3-1. 相づちの形態[相づち詞・他の言語形式・うなずき]

[中国語]

12組、計75分の会話資料の中で、聞き手の相づちは合計551か所現われた。うち言語的相づちは467回で、非言語的表現のうなずき(言語形式無しで単独で使われるうなずきのみ)は84回である。

相づち詞として使われた言葉は23種類ある。うち、半数以上の被験者が10回以上使用しているのは4種類のみで(右の表を参照)、何れも感声的表現で、実際は単音漢字2つだけである。

使用される相づち詞の種類(一人当たり)5.7であり、個人別の異なり数となると、一番多い人は10種類で、もっとも少ない人は2種類で終わった。

相づちの形式別使用割合に関して、<相づち詞><他の言語形式><うなずき>の平均値は66.2%、18.6%、15.2%である。うち、<感声的表現>(小宮1986)の「嗯系」と「啊系」は、相づち詞の85.8%に達している。また「くり返し」が<他の言語形式>の80.4%を占めており、一番多いのは100%である。

[日本語]

6組、48分の会話の中で、聞き手の言語的相づちが533回、非言語的表現のうなずきが70か所、合計603回の相づちが観察された。相づち詞に用いられた言葉は29種類あり、平均して一人当たり10.5種類、多い人で20種

表1.

(C C) 中国語における主な相づち詞の使用一覧表

相づち詞	出現回数	総言語的相づち数に対する割合	使用人数
嗯 [ng, n̄]	152	32.5%	12
啊 - [a-]	69	14.8	11
啊 [a]	62	13.3	11
嗯 - [ng-, n̄-]	15	3.2	6
合計	298	63.8	

表2

(J J) 日本語における主な相づち詞の使用一覧表

相づち詞	出現回数	総言語的相づち数に対する割合	使用人数
ハイ	190	35.6%	6
エー	119	22.3	5
ア、ソウデスカ	72	13.5	6
アー	24	4.5	3
ウン	16	3.0	3
ソウデスカ	14	2.6	5
ハイハイ	10	1.9	3
ソウデスネ	10	1.9	4
エーエー	9	1.7	3
合計	464	87.1	

類、少ない人で7種類を使っている。相づち詞の出現回数上位9位にある（被験者の半数が使っている）ものをまとめると表2（前頁）の通りになる。形式別使用割合に関しては、相づち詞が84.6%、それ以外の言語形式は3.8%、非言語的表現のうなずきは11.6%である。そのうち、「ハ系」と「エ系」（小宮1986）の相づち詞は、相づち詞の65.7%を占めている。

〔まとめ〕

- ・日本語のほう相づち詞が豊富で、特に感声的表現のバリエーションが多い。
- ・中国語の相づち詞は、感声的表現の「嗯系」と「啊系」に偏っている傾向を示している。日本語は「ハ系」と「エ系」に集中している。
- ・中国人はくり返しの回数が目立って多い。
- ・中国人はより非言語的表現のうなずきを多く使用する。
- ・中国語の相づちは、待遇性がない。

3-2. 相づちの頻度

算出法：被調査者が聞き手に回っている部分だけを取り出し、その時間を聞き手の打った相づちの回数で割り、相づちと相づち間の時間で頻度を出した。

〔結果〕

中国語では、平均して5秒に一回である。うち、言語的表現の頻度に関してはかなりの個人差が観察され、人によっては9.2秒と3.7秒となる。

日本語では、平均して話し手が3.1秒話すと聞き手が一回言語的な相づちを打つか、黙って一回以上うなずくという結果が得られる。うち、言語的な相づちは平均して4秒に一回であり、頻度の高い人では2秒、低い人では5.5秒である。

〔まとめ〕

- ・日本語のほうは頻度が高く、使用上、比較的均質性を示している。
- ・中国人の頻度の個人差が著しい。

3-3. 相づちの機能

収録した会話資料に出ている中国語と日本語の相づちを分類・分析し、相づちが会話の中で果たす機能について次のようにまとめた。

「 」とく >の中はそれぞれ日本語と中国語の主な表現形式である。
↓は下降イントネーション、↑は上昇イントネーション。

- ①聞いているということの表われ……「ハイ↓」「エエ↓」「ウン↓」
 <うなずき>< 噫 >< 啊 >
- ②了解、理解の表示……「ソウデスカ↓」「ウンウン↓」「エエ↓」
 「エエ、エエ↓」「アア↓」「ア、ハイ↓」「アア、ソウデスカ↓」
 「くり返し」「先取り」「言い換え」「うなずき」<噫→<啊→>
 <噫、噫><啊、啊><是吗><うなずき><言い換え><くり返し>
- ③興味、関心を示す……「ソウデスカ↓」「エエ↑」「ア、ホントウデ
 スカ↓」「くり返し」「先取り」「言い換え」<噫→<くり返し>
 <言い換え><先取り><うなずき>
- ④同意、共感を伝える……「ハイ↓」「ウン↓」「エエ↓」「ソウデス
 ネ↓」「うなずき」「くり返し」< 对 ><噫、噫><うなずき>
- ⑤意見、感想を表明する……「コメント（ヨカッタデスネ など）」
- ⑥儀礼的に否定する……「イイエ↓（一例）」

[考察]

▲中日相づちの機能はほぼ同じである。しかし、相づち詞の意味領域の面では、日本語が中国語より広くかつ曖昧である。特に「ハイ」「エエ」「ウン」「ソウデスカ」が同時にいくつもの機能を持っている。それに対し、中国語では、相づち詞として使われるとき、意味範囲が比較的明確で狭い。

▲相づち詞以外の形式の持つ機能に関して、中日にはずれがある。

- A. まず、中国語でのコミュニケーションにおいては、個人差が大きいのにもかかわらず、うなずきは視線や表情の変化のような非言語行動と合わせて、重要な役割を果たしている。聞き手の聞いているという態度や話し手への尊重の意を表わす重要な手段と考えられる。
- B. 今回収集した会話資料に限定して言えば、日本人は、話し手の発話に対し、それを言い換えたり、先を予測して言ったり、または感想やコメントなどを発表したりするという形で会話に参加する。それに対し、中国人は、主に話し手の話の中に出た情報についてくり返すことによって、相手の話に理解や興味を示したり、話の展開を促したりする。これは、くり返しの回数の多いことから分かる。同じ「くり返し」ではあるが、中国語ではより実質的な意味を持っており、聞き手はそれを主な手段として会話に参加したり、話の展開に方向をつけた

りするのであろう。

4. まとめと今後の課題

中国語と日本語の会話における相づちの運用上の異同点について分析・考察を行なった。その結果、日本語の相づち詞のほうはより種類が多く、頻度が高く、意味領域が広いということが改めて実証された。中国人は相づち使用における個人差が予想以上に大きいことが今回の調査で明らかになった。また中国人は会話の中で、話し手の発話をくり返す傾向があり、「くり返し」の会話の展開の上で果たす役割が日本語より大きいことも分かった。更に、中国人は単独で行われるうなずきや視線などをより重視する傾向も観察された。

今後の課題として、以下の二点を取り組んでいきたい。

①中日相づちのタイミングの特徴

②中国人留学生の日本語における相づち使用は母語の影響を受けるかどうか

【主な参考文献】

- 伊藤博子(1983)「談話の指導—バックチャンネルからの展開」『日本語学』12—9 明治書院
岡崎敏雄(1987)「談話の指導—初～中級を中心に—」『日本語教育』62
奥津敬一郎(1989)「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」『日本語学』8—8
黒崎良昭(1987)「談話進行上の相づちの運用と機能—兵庫県滝野方言について—」『国語学』150
小宮千鶴子(1986)「相づち使用の実態—出現傾向とその周辺」『語学教育研究論叢』第3号
大東文化大学語学教育研究所
サトスベリ(1993)「会話におけるフィリピン人の相づちの研究—対フィリピン人及び日本人—」
筑波大学修士論文
杉戸清樹(1988)「ことばのあいづちと身ぶりのあいづち—談話行動における非言語的表現—」
『日本語教育』67
中田智子(1992)「会話の方策としてのくり返し」『研究報告集』13 国立国語研究所 秀英出版社
任荣哲・李先敏(1995)「あいづち行動における価値観の韓日比較」『世界の日本語教育』5
国際交流基金 日本語国際センター
野畑理佳(1996)「対話における聞き手の言語行動—相づち的な発話による聞き手の参加—」平成8年度日本語
教育春季大会予稿集 社団法人日本語教育学会
堀口純子(1988)「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64
松田陽子(1988)「対話の日本語教育学—あいづちに関連して—」『日本語学』7—13
水谷信子(1983)「あいづちと応答」『話しことばの表現』水谷修編 講座日本語の表現3 筑摩書房
水野義道(1988)「中国語のあいづち」『日本語学』7—13
メイト 泉子(1993)『会話分析』くろしお出版
劉建華(1987)「電話でのアイツチ頻度の中日比較」『月刊言語』16—12